

『2023年度新教育課程の導入の意義と今後の展望 ～学修者本位の教育の意義を考える～』

1. テーマ

学生確保が難しくなりつつある等、本学を取り巻く環境が一層厳しくなる今日、本学が高等教育機関として建学の精神に基づき、真に社会に貢献し、存続し続けるために、教育効果の最大化を目指した自律的な教育の改善が求められています。本学では、2019年度以降、教学マネジメント委員会および教育課程見直し検討委員会を中心に、学生の成長を軸とした「学修者本位のカリキュラム」の策定とたゆまぬ改善の実現に向けて、3つのポリシーやカリキュラムマップ・ツリー、履修モデル、さらにはアセスメント・ポリシーの策定と自律的な教育改善に取り組むための基盤整備に取り組んでまいりました。

いよいよ2023年度より、これまでの見直し内容を踏まえた新教育課程が始動することになります。

この新たな歩みに際し、これまでの教育課程見直し検討の意義と今後の展望について、教職員の皆さまと分かち合う機会になればと願っています。全学的なFD・SD活動の一環（機会）としても捉えていますので、皆さま、ぜひ、ご参加ください。

2. プログラム

日時：2022年11月16日（水）15：40～17：10（受付開始15：20～）

会場：Webex等によるオンライン開催 ※URLについては後日配信

対象者：本学の全教職員（非常勤講師含む）、西部地区五大学の教職員、学生

【当日のスケジュール】

時間	項目・内容
15:40～15:45	開会挨拶：学長 G. W. バークレー
15:45～17:05	発題①：「学修者本位の教育の意義と展望」 発題者：副学長（教育・研究担当）、教育・研究推進機構長 立石 剛
	発題②：「教育課程内部質保証の推進：その考え方と要点（2022）」 発題者：教務部長 渡邊 均
	対話 発題①、②を踏まえ、発題者と教職員、学生が意見交換や質疑応答を行います。
17:05～17:10	閉会挨拶・総括： 副学長（教育・研究担当）、教育・研究推進機構長 立石 剛